The Lepidopterological Society of Japan

Vol. 1, Pt. 2. Nov. 1949.

蝶と蛾

BUTTERFLIES AND MOTHS

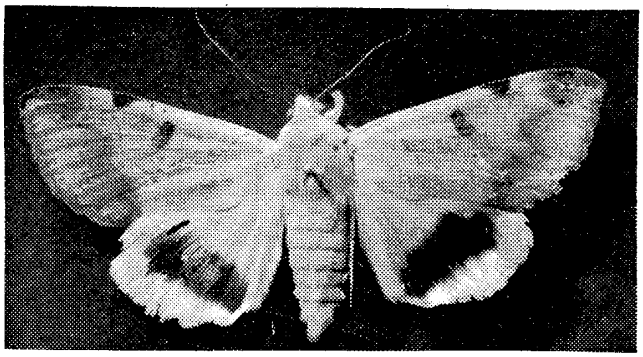
(The Transactions of the Lepidopterological Society of Japan)
The Lepidopterological Society of Japan
c/o Y.OKADA, Yanagida-cho, Saga, Kyoto, JAPAN.

本邦より初めて記録されるクロモンシタバに就て

小 林 桂 助

ON ANUA TIRHACA SEPARANS (NOCT.) NEWLY-RECORDED FOR JAPAN

By KEISUKE KOBAYASHI



Anua tirhaca separans

昭和20年12月9日午後，神戸の自宅の石塀に絡んだナツヅタの蔓に見なれない大形の蛾が靜止してゐるのを發見したので，直ちに採集して調べてみた處クロモンシタバである事が判明した．本種は臺灣・沖縄等よりは記錄があり，北大昆虫學教室にも兩地の標本が4頭藏せられてゐる由であるが，本邦よりは未記錄の種類であり，然も嚴冬かゝる南方系の種類が神戸に於て採集された事は興味ある事と思われるので茲に報告する．

邦書に本種の圖示されてゐるものには松村博士の續日本千虫圖解（第20圖4）があり右は *Pseudophia* (*Ophiusa*) *tirhaca* Cram. なる學名で北大所藏の臺灣又は沖縄產の標本を圖示されたものである．更に同博士は日本昆虫圖鑑には *Anua tirhaca* として前記の圖を轉載して居られる．然るに今回私の採集した標本は前記松村博士の *A. tirhaca* に比し後翅黑斑は著しく大きく Seitz (Palearctic Noctuidae, Vol. 3,p.60) は *Anua separans* に殆んど一致する．元來 *Anua tirhaca* は歐洲南都・アルジエリヤ・カナリー・サイプラス・シリヤ・小アジア・印度・支那・臺灣・沖縄等に分布する種で，Seitz には次の6型が圖示されてゐて，各型の特徴は：——

NII-Electronic Library Service

The Lepidopterological Society of Japan

1) *tirhaca*
2) *absens* : — the block in hindwing of the ♂ is entirely wanting
3) *auricularis* : — the band is more or less attenuated and obsolescent.
4) *vesta* : — the band is evenly broad and black with both edged dentate,
5) *separans* : — and attain its greatest development in the form of *separans*,
6) *pura* : — the ground color is absolutely pure without any transverse striae.

又 Hampson の catalogue of the Noctuidae in the collection of British Museum XII には *Anua tirhaca* に次の5型が記載されてゐる.

ab. I, Hind wing without postmedial black patch
ab. II, *auricularis* : — Hind wing with obsolescent postmedial band from below vein 7 to above tornus.
ab. III, *vesta* : — Hind wing with the postmedial band broader and blacker.
ab. IV, *separans* : — Hing wing with the postmedial band broad, black, and from just below costato just above inner margin.
ab. V, *hottentota* : — Fore wing with the terminal area not suffused with red brown ; hind wing with the band very broad and almost terminal.

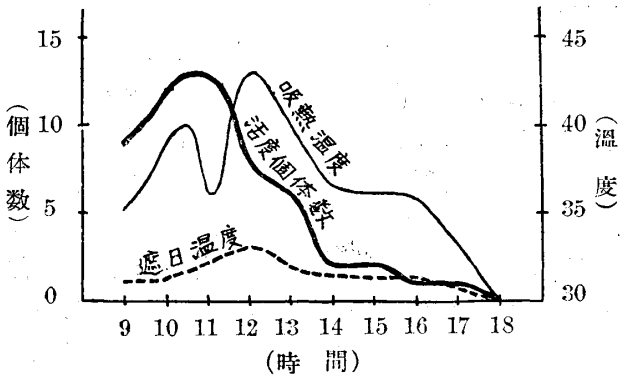
以上の通りであり本種の各型は大體後翅黑斑の大小が特徴となつてゐるが，北大の4頭の臺灣・沖繩產の標本についても *tirhaca* 型と *separans* 型のものとが認められる由である.

又 Seitz に依れば黑斑は歐洲產のものは弱く，印度・支那產のものに於て最もよく發達するとの事である. 今回私が六甲で採集した標本は前記の如く黑斑の最も發達した *separans* 型である.

筆を擱くに當り北大所藏の標本につき御調査下され且種々御注意を戴いた高橋弘氏に對し御禮を申し上げる.

モンシロチョウの日週活動

鳥 居 正 名



京都に於けるモンシロチョウの日週活動 (1946年6月12日，快晴).
太い實線：活動個體數，細い實線：吸熱溫度，點線：遮日溫度.

1946年6月12日快晴日に於けるモンシロチョウの日週活動を觀察したところ，圖に示した樣な結果を得た.

即ち本種は蜂類ほど朝早くからは活動せず，10時頃迄活動は低調である. 併し活動はすでに6時半頃 (時間はすべて普通の時間でサンマータイムでない) より始り，光線の强さが日中と同樣になる7～8時より急に盛んとなる. 11時頃迄活動個體數は增加するが，最高溫度の12時頃には必ずしも活動が最高でなく，次第に低下を示す. 2～3時より活動個體は非常に少くなる.

NII-Electronic Library Service